



近世文化展示室  
守屋壽コレクション

福山城築城400年記念事業

# 江戸幕府と日本地図

令和4年12月9日|金| ▶ 令和5年1月31日|火|



## 享保の日本図, 3年ぶり一般公開!

今回の近世文化展示室「守屋壽コレクション」では、江戸時代に幕府が製作した日本地図の特集をします。

江戸幕府は、通算で6度日本地図を製作しました。それぞれが全国の大名を動員して作られた大プロジェクトでした。そして、いずれの地図も、作られた当時の時代や社会状況も反映した「最先端の日本地図」でした。また、これらの地図は、幕府の書庫に収められるだけでなく、様々に写し取られて、江戸時代の社会で活用されたことも知られています。

今回の展示会では、平成26年(2014)に「新発見」として話題を集めた「享保の日本図」(写真)も3年ぶりに公開します。タテ150cm,ヨコ340cmの大型の日本地図は見ごたえ十分です。この機会に是非御覧ください。

展示の内容は次の頁へ ▶▶

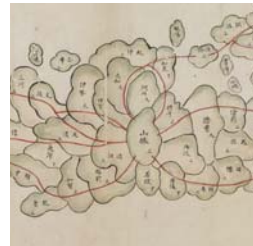
# 江戸幕府の日本地図にみる地図の進化

展示会の見所のひとつに「日本地図の作り方の変化」があります。

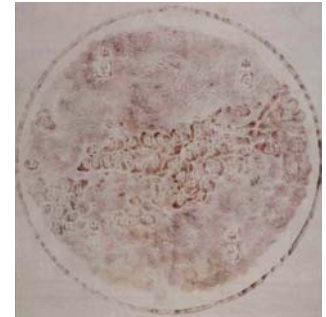
江戸幕府成立以前から使われていた地図から伊能忠敬が測量して製作した地図まで、地図の作られ方が次第に変化していきますが、それはあたかも「日本」という国を、当時の人々がどう捉えていたかを反映しているようでもあります。

## 江戸時代以前

江戸時代以前に広く世の中で使われていた地図が「行基図」と呼ばれるタイプの日本地図でした。この地図は、だんごを重ねたように諸国が描かれ、本州などが形作られています。しかしよく見ると、京都がある山城国が最初に描かれ、そこから東西南北に隣接する国々が描き足されている様子が見て取れます。



ほかの行基図でも山城国が最初に描かれていることがわかります。



北野天満宮神前大鏡裏面之図(江戸時代前期)

## 江戸時代前・中期(17~18世紀頃)

幕府は、日本全国の地形や町、道、水路などを把握するため、全国の大名家等に命じて安芸国・備後国など諸国の地図(国絵図)を提出させ、それらを統合・編集することで日本地図を製作しました。

「全国各地を藩が統治し、幕府は全体をまとめる」という、江戸時代の政治体制のあり方を象徴するような地図作りと言えるかも知れません。



日本図(江戸時代)

この日本地図は、幕府が寛永15年(1638)に作った日本地図の写し。左はその素材となった国絵図の一つ、周防国図の写し。



周防国図(江戸時代)

## 江戸時代後期(19世紀)

全国を測量しながら歩き、そのデータを基に精度の高い日本地図を作ったことで知られるのが伊能忠敬です。彼が作った地図の特徴は、本州・九州・四国を「一つの大きな陸地(大きな島)」と見て、地形測量を行ったことにあります。

伊能忠敬の日本地図が完成して40年後、当時のパリ万博にあわせて幕府はこの地図を刊行します。そこには、欧米を中心とする近代国際社会に対し、「日本国」の形と範囲を宣言する意味があったと言われます。



安芸国・備後国部分の拡大国境が描かれていない点が、他の幕府の日本地図にはない特徴です。



官板実測日本地図(慶応元年(1865)初版,明治2年(1869)再版)

近世文化展示室では、「菅茶山の世界・茶山が収集したモノ」も同時開催しています。

入館料／一般290円(220円),大学生210円(160円),高校生まで無料 ※( )は20名以上の団体  
休館日／月曜日(1月2日,1月9日を除く。),12月28日~1月1日,1月4日,1月10日

# 草戸千軒お化け屋敷

(歴史×心理学)

夏休み期間中にあたる7月23日から8月27日まで、毎週土曜日の18時から20時に、小学生とその保護者を対象にお化け屋敷を開催しました。博物館と草戸千軒町遺跡に親しみを感じるとともに、歴史に関心をもってもらうことを目的としています。夏休みの歴史学習、そして防犯意識の啓発の機会として、当館と福山大学人間文化学部心理学科が連携し、共同制作・実施しました。昨年に続く2回目の今回も、参加者から大好評をいただきました。

さて、当館のお化け屋敷には、遊園地などのものとは異なる歴史博物館ならではの特徴があります。

## 室町時代の町並みが会場

特徴の一つは、展示室内に復原された実物大の草戸千軒の町並みを会場としていることです。専門家の時代考証を経て、細部まで作り込まれた中世の町並みは、実際に室町時代にタイムトリップして、草戸千軒のお化けに遭遇したような錯覚を感じる体験を提供してくれます。



LED照明がゆらめくお化け屋敷会場

## 福山大学との博学連携

博物館が大学と連携して、お化け屋敷を制作した例はほかになく、全国的にもユニークな取り組みです。大学から35名の学生が参加してくれました。4月から7月まで毎週木曜日に集合し、学芸員と共に、お化け屋敷の仕掛けや演出を考えました。小道具の製作や演技のリハーサルも繰り返しました。歴史的背景や防犯意識の啓発についての解説も練りました。

このお化け屋敷は、室町時代の藩町である「草戸千軒」を実物大に再現した町並みが会場だよ。700年くらい前の夜ってどんな感じだったんだろう。人々はどんな気持ちだったのかな？体験してみよう！  
お化け屋敷の仕掛けを作ってくれたのは、福山大学人間文化学部心理学科の学生さんたち！どんなところに危険が潜んでいて、人間がどんな状況を怖いと感じるかを、体験的に学習できるよ！

7/23(土)、7/30(土)、8/6(土)、8/13(土)、8/20(土)、8/27(土)  
二部制 ( ①18:00~19:00、②19:00~20:00 )

●対象 小学生(保護者の同伴が必要)  
●定員 一日15組、一組4名以内(保護者を含む、保護者は最大2名まで)  
●申込方法 申請書のWebサイトから応募フォームをダウンロードして申し込みください。  
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kekishih/taiken-event.html  
②参加希望日時は、第二希望までお受けします。  
●締切 7月25日(火)17:00必着  
●参加決定 定員を超えた場合は、抽選によって参加者を決定します。  
当選者には、7月19日(火)を目途に、文書で結果をお知らせします。  
抽選結果の連絡は、当選者への決定通知をもって代わさせていただきます。  
●お問合せ 福山大学人間文化学部心理学科 千軒千軒まちづくりセンター  
ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館) 〒720-0067 福山市西町2-4-1  
TEL:084-931-2513 FAX:084-931-2514  
Eメール:rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp  
●その他 「新型コロナウイルス感染症の感染防止」により、行事中止または一部変更する場合があります。  
マスクの着用をお願いします。  
\*感染症の発生、体温を測定させていただきます。  
\*夏熱がある方は、同行者を含めて参加をお断りしますので、予め御了承ください。  
\*心身に不安のある方は参加をお断りください。  
\*介助等、特別な配慮が必要な場合は、事前にお知らせください。

参加費:無料

## お化け屋敷のチラシ

## 歴史の学びがある

歴史教育の場という役割も果たせるものとなりました。体験前後に、草戸千軒や室町時代についての解説を行い、参加者に歴史へ関心を向けてもらいます。わずかな口ウソク状のLED照明だけが設置された会場では、中世の夜の暗さや、草戸千軒の住人の心細さを感じてもらいます。お化け屋敷での体験を、先人の暮らしや気持ちに思いを馳せるとい歴史学習に結び付けてもらうためです。心で感じる歴史学習の場をめざしました。また、暗い草戸千軒だけで終わらぬよう、昼間に御家族で改めて来館し、詳しく展示を見ていただくこともお願いしました。



大学で企画を練る学生たち



お化けになり切った学生たち

## 犯罪心理学を応用した仕掛け

怖い仕掛けも、テーマパークのお化け屋敷とは一味違います。犯罪心理学を応用し、恐怖や不安を喚起する仕掛けを工夫したものです。テレビドラマでおなじみの科捜研(科学捜査研究所:警視庁及び都道府県警察本部の刑事部に設置される附属機関)出身の教員の方々が、指導くださいました。暗がりの中で、どこに怖さがひそんでいるか、どんなところで犯罪が起こりやすいか、という視点から、防犯意識の啓発にも結びつけることができます。

仕掛けの種明かしを御披露したいところですが、来年度以降も開催する予定なので明かせず、残念です。是非来年度以降に参加応募して、体験してください。

## 参加者からのメッセージ

参加者にはアンケートに答えていただきました。こんな声を寄せてくださいました。

(小学生から)「怖かったけど楽しかった。」「心が飛び出しそうになって、とにかく怖かった。」「クオリティーが高くてすごかった。」など、とにかく怖がってくれたことがわかります。

(保護者から)「色々工夫されていて、とてもこわおもしろかったです。」「子どもたちが予想以上に怖がっていた。」「学生の演技に感動した。」「家族のいい思い出になりました。」など、家族の思い出作りにも貢献できたようです。



屋外がまだ明るい中、会場へ向かう参加者



期待と不安の中、いざ、お化け屋敷入口へ



開催後の記念写真

学校連携の取組を報告します!

ズーム

## Zoomを使った遠隔授業を行いました!

令和4年4月27日、鳥取県八頭町立八頭中学校と当館をオンラインでつないだ遠隔授業を行いました。ここではその取り組みについて紹介します。

きっかけは、八頭中学校の先生から、当館へオンラインを利用したゲストティーチャーができないかと問い合わせをいただいたことでした。コロナ禍で、校外学習が制限される中、実物大の復原展示を通して歴史に興味を持ってもらいたいという思いからの相談でした。

リモート授業や会議が増えてきた昨今ですが、学校とつないだ遠隔授業というのは当館にとっては初の試みです。

先生と事前に打ち合わせを重ね、Zoomを使用した際の通信状況や音声の聞こえ方などを確認しました。当初は外付けwebカメラの使用を検討しましたが、手ブレすることがわかり、ノートPCの内蔵カメラを使用することになりました。(写真1)

当日は4限目と5限目を利用し、2年生4クラスを二つのグループに分けて授業を行いました。

いよいよ学校とつなぎ、展示室が画面に映し出された瞬間、生徒たちからは「おお～」というどよめきが起こりました。

まず、職員が当館と展示室のおおまかな説明をしながら町並みの中を歩き、そのあと生徒からリアルタイムで質問を受け付けました。

2グループとも活発に手が挙がり、「当時のお金は今の値段に換算するといくらぐらいですか?」や「お風呂やトイレ、ゴミ捨て場はどこにありましたか?」などの様々な質問が出てきました。(写真2)

終了後にいただいた感想文にも「室町時代に興味がわいた」、「実際に博物館に行ってみたくなった」といった前向きなコメントが多く寄せられ、私たちにとっても非常に手応えがある結果となりました。

今回の取組が成功したことで、オンラインを活用した博物館活動の可能性の広がりを感じることができました。



写真1

ノートパソコン2台を使い、暗いところはライトで照らしました。



写真2

遠く離れた教室でも、歓声やリアルタイムでの熱心な質問に、非常に手ごたえを感じました。(八頭中学校提供)

## 今年も行いました！博物館実習とインターンシップ

# 学芸員資格取得のための博物館実習



歴史グループのディスカッションの様子



考古グループの発表の様子

博物館の学芸員資格取得を目指す大学生・大学院生を対象として、毎年7月末ごろから6日間の日程で博物館実習を実施しています。

今年度は7月28日～8月3日の日程で実施しました。実習では、考古グループと歴史グループに分かれて展示作りを中心に行い、最後に館員向けに展示内容を発表してもらいました。

考古グループは「<sup>すりばち</sup>搦鉢」を、歴史グループは「近代の教科書」をテーマにしました。異分野の学生同士が、異分野のテーマで展示を作らなければならないため、展示構成に苦労していました。

実習生の感想では、「単純な単語の解釈が合わず、展示の方針を決めるのに時間がかかった。」「実際に展示を作ることにより、展示を作る際に必要なことを、教えてもらうのではなく実感することができた。」などが挙がっていました。

実習生の皆さんには、今回の博物館実習から学び取ったことを活かして、学芸員資格取得を目指して励んでもらいたいです。

## 大学生の仕事体験・インターンシップ

大学生・大学院生を対象にした今年度のインターンシップでは、8月24日～26日にかけて「県庁インターンシップ」、9月6日～10日にかけて「BINGO OPEN インターンシップ」の二つを実施しました。参加学生には、いずれも「大学生が惹かれる博物館」を課題として提示し、取り組んでもらいました。

その中で、県庁インターンシップ参加学生から出された、大学生の利用が少ない理由として、訪問までの距離や費用、展示内容への興味・関心の稀薄などが挙げられました。

学生からは、その解決策の一つとして、「SNSのシェア文化」の活用が挙げられました。具体的には、撮影用の小道具を製作し、それを展示室に設置するものです。この道具を使い撮影することで、写真がSNSでシェアされ、来館者が増加するのではないかという提案でした。製作した小道具は、現在、館内で活躍しています。



学生が製作した撮影用小道具

# 頼山陽史跡資料館

## 「頼山陽書道展」

令和4年12月17日(土)～  
令和5年1月9日(月・祝)

「頼山陽書道展」は、頼山陽作の漢詩や熟語など、頼山陽にちなんだ言葉を県内の小中高生に書いてもらうことを通して、未来を担う若者たちに頼山陽に少しでも関心をもってもらい、理解を深めてもらうとともに、書写・書道教育の振興に寄与することを目的として開催する公募展です。公益財団法人頼山陽記念文化財団と頼山陽史跡資料館の主催で平成27年度からスタートし、今回で七回目となります。

募集課題は、頼山陽にちなんだ言葉や彼が詠んだ漢詩です。小学生(高学年)は「真」「忠孝」のいずれか、中学生は「山紫水明」「浩然之氣」「唯真故新」のいずれか、高校生は創作が「不識庵、機山を撃つ図に題す」「癸丑歳偶作」(二句)、「郷に到る」、臨書が「修史偶題」か「外史脱稿戯作」のいずれかを選んで作品に仕上げてもらいます。課題としてはかなり難しいといえますが、応募者は果敢に挑戦してくれていました。

今年度は、小学生52点、中学生57点、高校生23点の計132点の応募がありました。新規の応募が少しずつ増えてきており、県外から応募してくれた方もいます。

応募作品の審査は、10月16日に行われ、特別賞5点と特選3点、奨励賞10点の入賞作品が決定されました。入賞入選作品は主催者が表装し、頼山陽史跡資料館の展示室とロビーに展示します。応募にあたって、出品料(小中学生1,000円・高校生2,000円)を徴収しますが、これは表装代に充てられます。作品の中には、残念ながら誤字と判定され、選から漏れた作品(本展では準入選としています)もありますが、それでも、もう二度と書けない作品ですから、裏打ちしてお返ししています。

頼山陽の詩や書に向き合い、吟味を重ねることは、必ずや筆力の向上につながるはずです。今後とも多くの御応募をお待ちしています。



審査会の様子  
(広島市立袋町小学校体育館)



賞候補作品の選考

- 会 場 / 頼山陽史跡資料館 (広島市中区袋町5-15) TEL:082-298-5051
- 時 間 / 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
- 休 館 日 / 月曜日、12月28日～1月4日
- 入 館 料 / 無料



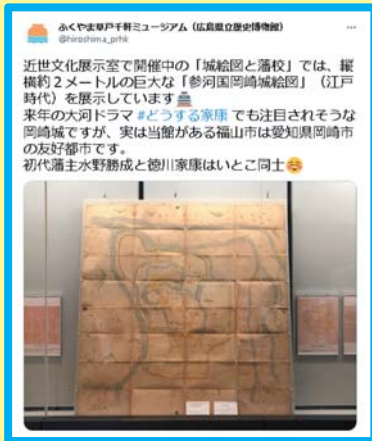
RAI SAN YU

# 博物館 掲示板

## 公式ツイッターアカウントを開設して、はや1年が過ぎました!

学校の団体見学の様子や展示の準備状況など、博物館の活動を皆様に分かりやすくお伝えしています。  
ほぼ毎日の更新で、フォロワーも増加中です。今後も御期待ください!

## ツイッター Twitter



# お正月だよ! こども博物館

今年もやるよ!

参加無料 申込不要

令和5年1月2日(月)・3日(火) それぞれ 10:00~16:00

博物館のまわりで、コマまわしや羽根つきなど、伝統的なお正月遊びが一日中体験できるよ!

天候に応じて、内容が一部変更になる場合があります。

※講演会等のスケジュールは、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、変更・中止になる場合があります。詳しくは、当館ホームページ等で御確認ください。

### 休館情報

年末年始は、令和4年12月28日(水)~令和5年1月1日(日)、1月4日(水)に休館します。また、改修工事に伴い令和5年2月1日(水)から臨時休館します。

## ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)ニュース 第132号

編集・発行

令和4年12月22日



**ふくやま 草戸千軒ミュージアム**  
(広島県立歴史博物館)  
HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4-1  
TEL 084-931-2513 FAX 084-931-2514  
e-mailアドレス rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp  
ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/>  
ツイッター [https://twitter.com/hiroshima\\_prhk](https://twitter.com/hiroshima_prhk)



▲ホームページ



▲ツイッター